

微生物土壤改良材

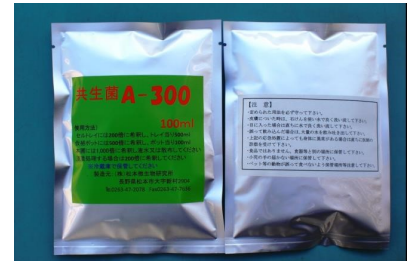
共生菌 A-300

作物の活力促進に

期待される効果

- ① 作物の健全化
- ② 連作障害物質の分解

使用方法



製品外観(1袋 100ml 液体)
冷蔵品

苗処理方法

2回処理 (1回目: 本葉展開直後 2回目: 1回目散布の1~2週間後)

「共生菌 A-300」1袋(100ml)を10a分の苗に散布して下さい。セルトレイの場合は200倍に、ビニールポットの場合は500~1,000倍にうすめて散布して下さい。

例: 「共生菌 A-300」1袋を20Lにうすめてセルトレイ1枚当たり500mlを散水した場合40枚のセルトレイに施用出来ます。

本圃処理方法

(1回目: 定植時 2回目: 定植2週間後 以降月1~2回)

- ・ 「共生菌 A-300」1袋(100ml)を1,000倍にうすめて灌水または散布して下さい。
- ・ 直播の場合は播種直後および本葉展開直後に散布して下さい。

ご使用をお勧めする作物: 野菜全般、切り花全般、鉢花全般

イチゴ、トマト、ナス、セルリー、レタス、キュウリ、ホウレンソウ、サトイモ、チンゲンサイ、ダイコン、コマツナ、アスパラガス、スイカ、キャベツ、ニンジン、シクラメン、カーネーションなど

イチゴ、トマトなどの長期採りの作物の場合や極端にストレスのかかる作型の場合は月1回から2回定期的に散布するとより効果的です。

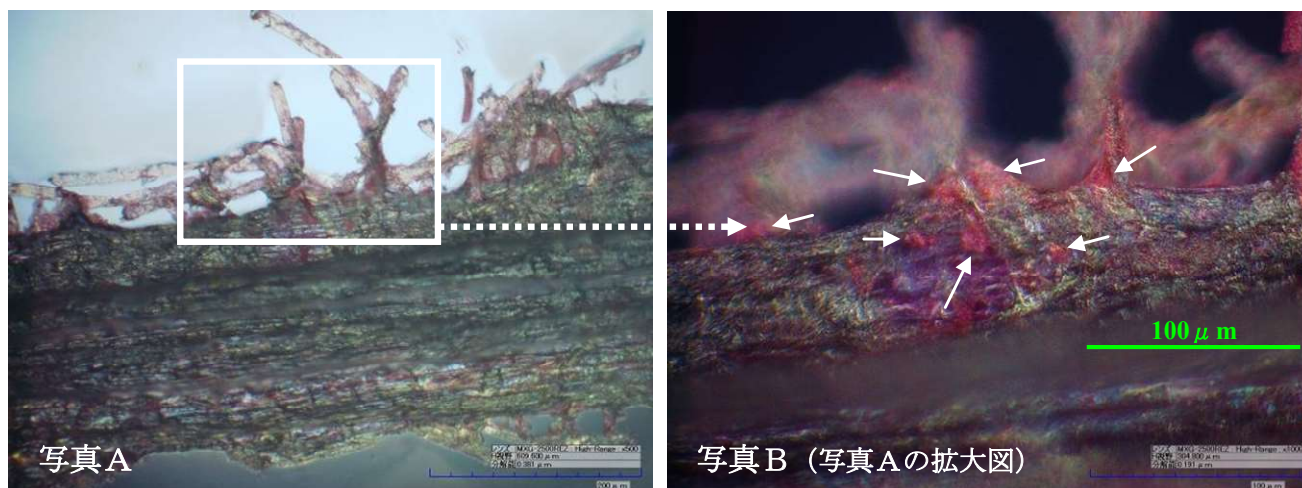
微生物の種類

イチゴの根から分離したエンドファイトの一種です。

(本商品は全国土壤改良資材協議会微生物資材部会の自主表示基準品です)

製造元: 株式会社 松本微生物研究所
〒390-1241 長野県松本市大字新村 2904
Tel.0263-47-2078 Fax0263-47-7636
URL: <http://www.matsumoto-biken.co.jp>

特徴① 作物への定着性が高く共生効果が期待できます



共生菌を接種して育てたイチゴ根の顕微鏡観察（写真A）。赤く染まっているのが共生菌（写真B 矢印（写真Aの拡大図））。

特徴② 多種類の連作障害物質の分解が可能

「共生菌 A-300」は連作障害物質を分解します

連作障害物質	影響を受ける主な作物
安息香酸	キュウリ、トマト、サトイモ、イチゴなど
サリチル酸	スイカなど
m-ヒドロキシ安息香酸	サトイモなど
p-ヒドロキシ安息香酸	レタス、ダイコン、キュウリ、トマト、サトイモなど
プロトカテク酸	アスパラガス、ニンジン、トマト、レタスなど
パニリン酸	レタス、ダイコン、ダイズ、トマト、サトイモなど
ゲンチジン酸	トマトなど
2,4-ジクロロ安息香酸	キュウリなど
シリンガ酸	イネなど

使用上の注意

- ※冷蔵庫（約 4℃）で保管し、製品が届いてから 6 ヶ月以内に使用して下さい。
- ※菌体が沈殿する場合がありますが効果に影響はありません。よく振って、希釈して下さい。
- ※製品中で微生物が生きています。農薬、強アルカリ強酸資材との混用は出来ません。
- ※農薬を使用する場合は 3 日以上の間隔をあけてから本製品を使用して下さい。
- ※開封後は残さずに使い切ってください。もしやむを得ず使い残しが出る場合は、雑菌が入らないように開封口をしっかりと閉じ、冷蔵（約 4℃）保管して下さい。
- ※安全性の高い製品ですが、小児の手の届かない所に置いて下さい。

- ・ 本表記載の内容は 2017 年 6 月現在のものです。
- ・ 製品改良などのため、製品仕様を予告なく変更することがありますので、予めご了承下さい。